

地域公共交通対策等特別委員会記録

開催日時 令和3年2月24日(水) 13:03~13:40

開催場所 第2委員会室

出席委員 7名

太田 敦 委員長

浦西 敦史 副委員長

川口 延良 委員

大国 正博 委員

井岡 正徳 委員

粒谷 友示 委員

田尻 匠 委員

欠席委員 1名

荻田 義雄 委員

出席理事者 濱本 政策統括官 山崎 交通部長 ほか、関係職員

傍聴者 1名

議 事

(1) 2月定例県議会提出予定議案について

(2) その他

<会議の経過>

○太田委員長 それでは、提出予定議案、ただいまの報告、またはその他の事項も含めて質問があればご発言をお願いします。

○大国委員 それでは、2点の質問をさせていただきたいと思います。

1つ目は、これまでこの地域公共交通対策等特別委員会で子どもの交通安全対策等について質問を行ってきました。大津市で園児が死傷した事故以降、子どもたちの周辺を取り巻く危険等をきっちりと把握した上で、特に未就学園児の園外活動等も踏まえて、いかに安全を確保していくかを議論してまいりました。

その中でも申し上げてきましたように、例えば小学校、中学校の生徒等については、地域の方々が登下校時に、年中、寒い日も暑い日も見守りをしていただいている。ところが、園児となると、園外活動をどこでどのルートで何時頃にとということすら、地域の

方々も分かっているという実態がはっきりとしてきました。

そこで、そういう状況を見える化することも非常に重要ではないかと考えていました。今回、荒井知事が、子どもの通学通園路の安全確保事業で、より安全な通学・通園路の設定の検討について予算化されています。通学路合同点検の巡回指導、あるいは通学路等安全対策推進会議の開催、そして、新規事業として全通学通園路マップのデジタル化等について予算に盛り込んでいただいています。まずこの事業等についてご説明をお願いしたいと思います。

○稲葉保健体育課長 奈良新「都」づくり戦略政策推進プランにおいて、子どもの通学通園路の安全確保のチーフコーディネーターを教育委員会保健体育課が担当しています。本テーマにおいては、教育振興課、安全・安心まちづくり推進課、奈良っ子はぐくみ課、障害福祉課、道路保全課、警察本部が連携して取組を進めているところです。

平成24年に京都府で発生した通学中の小学生の事故を契機として、教育委員会、道路管理者、警察による合同点検を行い、通学路交通安全プログラムに基づく対策を実施してまいりました。その後、交通安全の観点に防犯、防災の観点を加えて、県内の全通学通園路の合同点検を継続的に実施し、点検の結果、発見、考案した対策メニューを順次実施してまいりました。

現在、昨年度に各市町村から提出していただいた通学路マップと、これまでの合同点検の結果をデジタル化することにより、通学通園路に潜んでいる課題等を可視化し、膨大な数に及ぶ対策必要箇所の整理を行うとともに、より安全な通学・通園路等を検討する際の資料として、通学路マップのデジタル化を行うことを予定しています。本マップの情報を学校、保護者、地域の関係機関等が共有することにより、より安全な通学通園経路の検討や、対策必要箇所の把握をした上での見守り活動の充実及び見守りボランティア等による巡回ルートの設定など、地域の連携の場の効果的な運営がより推進、充実できるものと考えています。

今後のスケジュールについては、本予算案が承認され次第、速やかに関係各課と連携し、年度当初から仕様書等の検討に入り、スピード感を持って進めてまいりたいと考えています。

○大国委員 非常に重要な取組をしていただけると感じています。以前、桜井地域の危険箇所等の地図を見せていただいたことがあるのですが、一目瞭然でした。市町村から上がってきたということですが、まだ危険箇所に入っていない地域・箇所もあろうかと

思いますので、誰もが目を通して欲しいし、また、皆さんが目を通すことによって、より我が地域の危険箇所にはしっかりと注目していただけるのではないかと考えています。

これまでこの地域公共交通対策等特別委員会でもキッズゾーンのさらなる拡大等も申し上げてきました。昨年末には大和高田市全域でのキッズゾーンが設定されています。地域の方々にしっかりと園児の活動を意識していただくことが非常に重要だと思います。地域の皆さんと様々に力を合わせながら、しっかりと取組をお願いしたいと思います。

この全通学路通園路のデジタル化は、全国的にもまだそれほどやっていないのではないかと考えています。少しずつ状況は変わると思いますので、データの更新等も行い、地域の皆さんと定期的に話し合いをする中で、場合によっては推進会議もそうですが、例えば保育園の園児を日頃から見守る方々、先生方に対しての助言、指導等も検討していただければと思います。これは恐らく県警察の皆さんにもご協力をいただかなくてはならないと思いますが、事故が起こらないように専門的に持っているノウハウの展開をお願いしたいと思います。

もう1点、このマップのデジタル化の今後の活用に関して、何かお考えのものがあればご説明をいただければと思います。

○稲葉保健体育課長 これから仕様等を詰めながら、どのような形でできるかというところなのですが、現在考えていますのは、データを整理した上で防犯、防災、交通安全と、それぞれ色分け等しながら通学通園路における危険箇所を整理し、また、今後道路環境が良くなった地点に関してはその場所を取り除く、また、道路環境が変わって通学路等が変更された場合は新たなところを塗り直していくというような形で、最新の情報を常に見られるようにしていく。これを統一した規格の地図に落とし込むことによって学校長等が校長室に簡単に掲示し、学校長がいつでも自分のところの通学通園路の危険箇所等を理解する。それを育友会など関係の地域の方々にも会議があるごとに下ろしていく、地域連携の場を成熟させて、情報交換をする。また、地域の方々から新たな情報をいただければ、そこに新たにポイントを打っていくことで、子どもたちと学校と地域が連携しながら、本当に事故が起こらないようになる、価値のある地図になっていくものと考えています。

○大国委員 この地図の利用ですが、できれば、ポイントごとにいろいろなデータが入るとよいと思います。せっかくデジタル化をするわけですので、例えば画像データや、対策をこういうふうに行いましたとか、地域の皆さんのご懸念の声はこういうことです

ということも含めて、より皆さんが活用しやすいデータになればと思っています。そこが改修できて、対応ができましたというところもきっちりとデータとして残してもらって、こういうところが進んでいますというところがより分かればと思っていますので、引き続きよろしく願いいたします。

もう1点、先ほどご報告がありました地方踏切道改良計画策定に向けた調整状況については、私もこの地域に住む1人として、長年、住民の皆さんの声を聞き、さらには、菖蒲池6号踏切のところにある踏切道立体化を呼び掛ける、もうさびて文字が見えない看板を見ながら、何としてもこれは実現しなくてはならない、開かずの踏切で日頃から多くの方々、緊急自動車の通行で警察、消防の方々もご苦労されていると思います。本当に暮らしに直結をする課題だと住民目線で感じています。

また、大和西大寺駅は奈良県の北部地域の玄関口で、京都、大阪、神戸等の窓口になることもあり、非常にポテンシャルの高い駅で、結節する駅周辺のまちづくりが望まれておりましたが、南地区の区画整理事業も進み、ようやく南北自由通路、駅南側の駅前広場の設置等が進んでいるところでもあります。

荒井知事もこの1年間で本当に大事だと当初から常々おっしゃっており、私もその認識でいましたが、年度末を間近に迎えるところまで来ました。お話を聞いていますと、大変ご努力をいただいて、近鉄との協議を鋭意進めていただき、本当にご苦労をおかけしています。この1年間私たちも地元として何ができるかを考えてきましたが、国の関与が不可欠ということで、令和2年11月9日に赤羽国土交通大臣に現場をぜひ見てもらいたいとお越しいただきました。その場で荒井知事からも様々な要望もされ、私も聞かせていただきました。赤羽国土交通大臣の裁定につながらないのが望ましいわけですが、奈良県にとって非常に重要な事業がいよいよこの年度末に進むのか、もしくは停滞してしまうのか、大変重要な時期を迎えました。

そこでご苦労いただいている担当部署としての現在の所感をお聞きしたいと思います。

○加納まちづくりプロジェクト推進課長 大和西大寺駅高架化及び近鉄奈良線移設の協議の状況については、先ほど政策統括官から説明させていただいたとおりですが、このプロジェクトは、県としても踏切道対策や平城宮跡歴史公園基本計画の実現といった観点から重要なプロジェクトだと考えており、また、近鉄とも以前と比べてしっかりと議論ができています。令和2年度末までの合意が達成できるように残された時間は少ないですが、しっかりと協議を進めてまいりたいと思います。

○**大国委員** 協議ができているということで、期待していますし、最後の詰めは大変な局面もあろうかと思えます。最終的に負担割合をどうするかは一番重たい話だと思えますが、今できることを最大限に、また様々な知恵を使いながらお願いできればと思えます。まずは一步前進できるように私どももしっかりと見守ってまいりたいと思っていますので、よろしくお願いします。

○**太田委員長** ほかにありませんか。

○**浦西副委員長** それでは、委員長に代わり委員会を進めさせていただきます。

○**太田委員長** 私から2点質問させていただきます。

まず1点目ですが、平城宮跡周辺の踏切道の渋滞対策に伴う近鉄奈良線の移設について、令和2年度末が1つの節になっているという話が先ほど大国委員からもありました。

奈良県では、2008年から平城宮跡周辺地域における街路の渋滞対策検討事業を実施し、有識者の意見も聴取するなど様々な検討がこれまで10年以上にわたって行われてきました。渋滞対策のために近鉄奈良線の地下化や、それ以外の方法について幅広い観点から対策案を検討して整理を行うということで、利用者、地域社会、そして鉄道事業者など、それぞれの観点から、現在より急カーブにしなければ利便性が低下すること、鉄道の地下化による地下水の変化での木簡への影響、平城宮跡歴史公園整備への影響、新たな鉄道の敷設による地域の分断の問題、輸送力の確保、景観への影響などが、課題としてこれまで検討されてきたとお聞きしています。

また、費用対効果という点でも、事業者の負担割合なども今後検討されるということです。これは本当に大きな事業で、大和西大寺駅の高架化や近鉄奈良線の移設については、県民の意識も関心も非常に高いので、どのような形で県民の意見を吸収し、この計画に反映させていくのか、お伺いしたいと思います。

○**加納まちづくりプロジェクト推進課長** 大和西大寺駅の高架化及び近鉄奈良線移設は大変大きなプロジェクトであり、事業の実施前には県民の意見を伺うことが必要だと考えています。今後、プロジェクトの具体化の状況等を踏まえて県民の皆様への意見聴取の在り方を検討してまいりたいと思っています。

○**太田委員長** 例えばパブリックコメントなど、県民の意見を聞く手法はあるかと思うのですが、現在どういう形で検討されているのか、お伺いしたいと思います。

○**加納まちづくりプロジェクト推進課長** 踏切道改良計画策定と、実際のプロジェクトの実施の関係については、踏切道改良計画を策定したからといってすぐに実施していく

ものではありません。太田委員長ご指摘のとおり、様々な課題がありますので、踏切道改良計画にプロジェクトを記載すれば、その方向で関係者が実現に向け、まずはそういった課題を検討していくことになると思います。そのような検討状況も踏まえて情報公開の在り方を検討していくことになると思いますので、現段階で具体的な情報公開の在り方まで検討できている状況ではありません。

○太田委員長 国土交通省の当初の説明では、踏切道改良協議会が過程を見える化するということでしたが、先ほどご説明があった整備状況で、この合同会議が非公開になった経緯もあったかと思っています。今後、住民への公開の在り方は検討課題ですので、私たちが積極的に提案もしていきたいと思っています。

それに関連して、京奈和自動車道大和北道路の奈良インターチェンジから北半分については既に事業化もされており、この区間にある平城宮跡の地下に巨大なトンネルを掘る計画となっています。私たちもこれまで議会の中でも様々な形で意見を述べてきたところです。少し性質も違う部分があるかと思うのですが、東京外郭環状道路トンネルの工事箇所の上で道路が陥没することが令和2年10月に起こりました。道路の地下に空洞が見つかったということです。周辺の住民の皆さんが東京外郭環状道路の被害を独自に調査したのですが、床の傾きやコンクリートのひび割れなどの構造物被害が58件、騒音や振動を感じたなどの体感的被害が102件あったということです。現在、この京奈和自動車道の大和北道路につきましては、地下水のモニタリング調査は国土交通省のホームページなどでも見ることはできるのですが、例えば、着工前の地質や地盤の強度を確認する調査は全然ホームページに上がっていないのですが、今回の工事の事故を受け、この点について県として調査も必要ではないかと提案をしていくことが大切だと思うのですが、その点はいかがでしょうか。

○岡部県土マネジメント部道路政策官(道路建設課長事務取扱) 奈良国道事務所から大和北道路の(仮称)奈良北インターチェンジから(仮称)奈良インターチェンジまでの間については、現在、地質調査やトンネルの設計などを推進していると聞いているところです。

今、太田委員長からご指摘のありました東京外環トンネル施工等検討委員会の有識者委員会で議論されていますけれども、奈良国道事務所からは、この委員会の検討内容を注視し、必要に応じ調査を検討していくと聞いています。

○太田委員長 大和北道路地下水モニタリング検討委員会は定期的に行われ、資料も公

表されているということで、私たちもこれをずっと求めてきたところなのですが、こういう形で公表、データとして出されるということが1つ大切と思っていますので、ぜひ東京外郭環状道路の今回の陥没事故なども受け、改めて県からもこういった資料の情報提供を徹底していただきたいと思っています。その点は今後私たちも様々な機会を通じて求めていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

○浦西副委員長 それでは、委員長と進行を交代します。

○太田委員長 ほかに質問よろしいですか。

それでは、当委員会所管事項に係る議案が追加提出される場合には、当委員会を定例会中の3月8日月曜日の本会議終了後に再度開催しますので、あらかじめご了承願います。

それでは、理事者の方はご退席を願います。お疲れさまでした。委員の方はしばらくお残り願います。

(理事者退席)

○太田委員長 それでは、本日の委員会を受けまして委員間討議を行いたいと思います。委員間討議もインターネット中継を行っていますので、先ほどまでと同様に挙手の上、マイクを使って発言をお願いいたします。

まず、令和3年6月定例会において調査を終了し、その成果を報告しますが、調査報告書の骨子案を事前に各委員にお送りしています。骨子案の構成や成果の取りまとめとなる提言等についてご意見を頂きたいと思っていますのでよろしくお願いします。併せて、各委員において、地域公共交通に対する思いや、お考えがありましたらこの機会にご発言をお願いいたします。

○田尻委員 当委員会に関係のあるところでは、いつも機会あるごとに申し上げていますが、コロナ禍で公共交通の維持存続が大変厳しい状況になってきています。奈良には空港がありませんので飛行機は除外するとしても、鉄道、バス、タクシー、その分野がコロナ禍の緊急事態宣言となり、団体旅行、修学旅行で、観光客が皆無に近い減少となりました。公共交通の維持が非常に厳しい状況になり、そうなると民間会社ですのでおののが経営のことを考えていかななくてはなりません。一番気にしていますのは、奈良交通においても路線バスの維持が厳しい状況になってきて、どんどんバスの便が少なくなる、あるいはその路線の廃止になり、どうしてもその対象は山間地域を中心になってきます。そういう意味では奈良県は住みにくい、住めない状況になってくると思うので、

その点についてもいろいろな形で考えて、皆さんで協力して維持ということに力点を置いた施策も強力で押し進めていかなくてはならないと感じています。私の住んでいる地域は、奈良市の中でも西奈良地域といわれ、住宅地が多く人口密度が高いところで、大阪への通勤・通学も多いところですが、その路線でさえ減少になってきていることに、大変危機感を覚えるところです。

その点も含めて、皆さん方ともこの委員会の中で議論を進めて、今日まで維持発展と申し上げておりましたが、維持がなくては発展がありませんので、しっかりと押し進めていただきたいという強い思いがありますので、提議として申し上げたいと思います。

○太田委員長 ほかの委員さん、ご意見よろしいですか。

先ほど、田尻委員からも話がありましたけれども、鉄道もずっと本数を減らして運行されており、ダイヤ改正も間近に控えていますので、このまま本数が減らないかどうかということは私も大変危惧しているところです。田尻委員のご意見は、非常に貴重なご意見として踏まえさせていただき、調査報告書にもでき得る限り反映させていただきたいと思います。

作成しました調査報告書案は事前に委員の皆様にお配りし、6月定例会の事前委員会で協議を行いたいと考えていますので、よろしくをお願いします。

ほかにありませんか。ご意見がないようですので、これをもちまして委員間討議を終わります。

これで本日の委員会を終わります。